

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4077600155
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム 白梅
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市北野町陣屋486-6 (電話) 0942-78-6678
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年4月12日

【情報提供票より】(平成20年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造瓦葺 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000~12,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年3月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院 しぶえ歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームを母体とした法人が開設したホームである。田園地帯の住宅街に、ごく普通の民家として溶け込んでいる。元々民家であった住宅を増改築しており自分の家にいるような安心感がある。ホーム全体は少し狭い感じを受けるが、玄関を入るとその先には台所と居間があり、自然と利用者が集まってきて職員と談笑しながら穏やかながらも明るく家庭的な雰囲気の中で共に生活されている様子がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、家族からの意見や苦情があった場合に職員全員が共有できるような方法を取り入れたほうが良いとの事で、現在は苦情ノートを作り全員で回覧して共有できるようにしている。また、利用者の服薬についても分かりやすいようにしてはとの事で、個別に内服の種類や服薬法等を一覧にし食堂及び談話室内の書類棚に掲示して分かりやすいようにしている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価についても管理者・職員共に必要性を充分に理解したうえで自己評価に取り組んでいる。まず、自己評価表を管理者が一通り記載した上で全職員で検討し修正・加筆に取り組んだ。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、最初に利用者の状況報告や行事報告・案内をした上で毎回議題内容を決めて開催している。地域の相談員の方からは、防災訓練時の消防署との連携のやり方や避難経路についての情報提供があったり、家族会からも利用者に対しての相談を受けその場で参加者と共に対処法を検討することもある。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族からの意見等直接職員に言いにくい事は、家族会の会長に報告してもらいその後職員へ伝達してもらうようにしている。それを全職員で回覧できるように「苦情ノート」を作りホームの運営に活かすようにしている。また、家族の要望や不安に思われるようなことは、普段の面会の際に管理者や職員の方からさりげなく聞き取れるように気をつけている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日頃から、散歩や買い物など外出時の日常的な挨拶や敬老会等の地域の行事への参加をする事で近隣の方との交流を深めるようにしている。また、地域の総会には管理者が毎年参加して年間行事等の情報交換をするようにしている。そういう日々の積み重ねの結果、ホームの設立から5年近く経ち、ようやく地域の方からも受け入れてもらえるようになったと感ぜられるようになってきている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心とむ時間の中で共に生き、家庭的な親近感を大切にしたい」という理念の下、家庭的な雰囲気を大切に地域との交流も行っているが、理念の中に地域の中で暮らし続け支えていくという事業所独自の理念が盛り込まれていない。	○	利用者と共に積極的に日常的な挨拶や行事に参加する事で地域との交流はできているが、ますます地域に密着したサービスが提供できるように職員全員で地域との関連性を強化できるような理念を作り上げていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングの際に全員で唱和しており、玄関や共有の場所にも掲示し全職員に理念が浸透するように取り組んでいる。特に家庭的な雰囲気を大切にしたいの思いから、職員が本当の家族にはなれないが、利用者にとって少しでもその時々々の家人になることで落ち着いた生活が送れるような対応を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に買い物や散歩の途中の挨拶や時には野菜などのおすそ分けを頂いたりして交流を深めている。地域の行事の中で敬老会や地域の総会にも参加し、子ども会との交流もあり楽しい時間を過ごしている。また、地域の清掃があるが当日の時間が合わせられないので、あらかじめ担当区域を利用者と共に清掃している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、評価はホームのサービスをより一層向上させる為のものと理解している。その上で自己評価の作成は管理者が一通り記載し、全職員で加筆・修正を行い積極的に評価に取り組んだ。前回の評価についても早急に改善を行い、ホームのサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、まず利用者や事業所に関する報告を行い、毎回議題を決め検討するようにしている。例としては、防災訓練の取り組み方を相談した際には、参加者に地域の行政や福祉に詳しい方がおられ、消防署との連携の方法や地元消防団からの支援の受け方などのアドバイスをもらった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体である法人の各事業所に相談する事が多く、特にこれまでは直接、市との連携をとることが少なかった。	○	法人内だけの考えに捕われぬように、日頃から市の担当者と顔なじみの関係が作れるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまで制度を活用された方はいない。法人外で権利擁護の研修会があり管理者が参加したが、全職員にまでは伝達できていない。	○	全職員が、権利擁護について家族や利用者者に説明ができるよう勉強会等を開催して制度の理解を深めてもらいたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告は月1回、預かり金については3ヶ月に1回、主に郵送で家族に報告を行っている。預かり金の残額を確認してもらうために、明細書にレシートを添付している。また、ご家族に面会の機会を持っていたくためにもホームで使用する紙おむつはご家族に持参してもらうようにしており、その都度利用者の状況を報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方から直接職員に対しての意見は言いにくいとの事で、まず家族会の会長に相談されて、会長から管理者に伝えていただくようにしている。それを「苦情ノート」に記録し、全職員で回覧するようにしている。また、玄関の入り口にはご意見箱を設置している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでの2年間に職員の異動や退職はなかったが、今年3月末に家庭の事情で退職者がおり退職日の3日前に利用者へ伝えたが、特にダメージは見られなかった。後任の職員も同じ法人内からの異動であり、利用者との馴染みの関係が作れるように訪問の機会を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、職員の仕事に対する意欲を受け止め一人一人の個性を活かせるような人材を法人代表が面接し、管理者の意見を聞いて採用するようにしている。職員の年齢層も厚く個々の能力を発揮している。希望に沿った休暇の取得や、研修会の受講の対応等、職員の自己実現や社会参加に対する配慮がある。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表や管理者が「接遇」に対しての意識が強く、勤務時間内は「初心を忘れないため」にも法人全体や法人内の3ヶ所のグループホーム同士で、人権に対する勉強会を年間計画の中に立てて取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の3つのグループホーム同士で勉強会をしたり、法人内で年間計画を立てて研修会を実施している。参加できなかった職員には資料を配布し情報の共有ができるようにしている。職員個人でも積極的に外部研修に参加してスキルアップに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の3つのグループホーム同士で情報交換ができるように勉強会や法人全体の行事には参加しているが、特にこれまで他の同業者との交流は行われていなかった。	○	法人内に3つのグループホームがあり、その中で交流は活発であるが他のグループホームとの交流はほとんどされておらず、これからの取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が法人内の施設からの紹介の場合には、事前に管理者がご本人に面会に行き馴染みの関係を作るようにしている。在宅からの入居の場合には短い時間ではあるが、利用者と家族と一緒にホームに遊びに来てもらいホームの雰囲気を体験して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	まず、利用者と職員の会話を大事にする事を考えている。日頃から、季節毎の行事に関しての風習や料理の方法、菜園での野菜の育て方等詳しく教えてもらっている。また、時には個別で会話を持った方が良い場合には、居室に戻り衣類の入れ替えなどをしながら話を伺うようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の言葉や表情から思いを汲み取り、把握をするようにしている。また、意志の伝達が困難な方には、家族の訪問時に職員の方から声をかけ、これまでの生活歴や生活習慣を伺い、行動や表情の背景を推察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、利用者・家族からの思いや希望を聞き取り話し合いを行い、かかりつけ医からの意見等も計画に反映させ、利用者が楽しく生きがいの持てる生活を送れるような介護計画を作成するように努めている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミーティングや月1回のケア会議を基に、3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っている。入退院や利用者の状態変化があった場合には早急に職員と利用者・家族と共に必要に応じた介護計画の見直しを行い、随時プランの変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や外出支援等柔軟に対応している。家族の方の希望があれば、食事の提供や宿泊もできるようにしている。今後、近隣の方からの相談があれば、体験宿泊も受け入れて行く意向である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に、そのまま現在も受診している。定期受診は家族に受診介助をお願いしている。しかし、困難な場合は家族からかかりつけ医に往診を依頼されたり、緊急時には職員が支援を行うようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに看取りの経験はなく、かかりつけ医と連携が取れるように情報交換を行ったり、法人内の施設に相談している。今後、利用者・家族からの希望があれば、終末期の対応方針を家族や関連職員とともに話し合いを持ち積極的に取り組んでいきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が、利用者の自尊心・羞恥心に配慮したケアや声かけを行うよう心がけている。個人情報保護についても全員が理解し、書類の取り扱いや記録物の保管にも十分注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意志や希望を最優先し、日課にとらわれない生活を支援している。一人一人のペースに合わせた生活が過ごせるよう、利用者の気持ちを尊重し、個性ある支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からの希望も聞き取り一週間毎の献立を調理師の資格を持つ職員が主に作成している。利用者、職員と一緒に準備や食事片づけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	民家を改造した住居でユニットバスを使用している。決して広くはないが利用者にとっては安心できるように、入浴を拒否される方はいない。入浴は、毎日希望の時間に入る事ができ入浴時間や入浴の順番等も個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり一人の得意分野を職員は把握しており、調理の下ごしらえや、毎朝洗濯物たたみをしてもらったり、自室の掃除をする時は職員が掃除機をかけ、利用者はモップで拭いてもらい機能低下予防や生きがいにつながるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	道路ひとつ隔てた所に畑があり、散歩がてらに作物の生育を見たり、買物、外食など希望に添えるように支援している。どうしても当日の対応ができない場合にはきちんと説明し、早めに計画を立て納得のいく支援を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は21時までは鍵をかけていないが、玄関付近を人が通過するとチャイムで知らせるようになっている。利用者が外出しそうな時には、さりげなく声をかけたり一緒に歩いていくなどして、安全性に配慮した自由な暮らしが送れるように支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼・夜間を想定した訓練を行っている。避難場所への誘導・緊急連絡等は全職員が把握しており、訓練の際には近所の方には知らせている。しかし、地域の消防団・近所の方との連携が不十分であり、今年度は取り組んでいきたいと考えている。	○	グループホーム内での訓練の成果は認められるが、地域の消防団・近所の方との連携・協力体制が取られることが望まれる。運営推進会議の中でも参加者からの情報が提供されており、今後の取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は、生活記録表に記入している。コップ1杯を目安に日中は7～8杯ぐらい、夜間は就寝前にペットボトルにお茶を入れ各自部屋で飲んでもらっている。栄養のバランスにも気をつけており、偏りがないように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間や隣の和室には、季節感が感じられる装飾品が配置され季節の花が生けられており、温かい雰囲気が出ている。特に食堂兼居間にはいつも利用者や職員の笑い声や会話が聞こえており、ソファに座ると自然を外の風景が目に入り穏やかな場所となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の広さがそれぞれ違うが、自宅で使用していた整理たんすを持ち込まれたり、家族の写真を飾ったり、これまで身近にしていた馴染みの物をうまく配置してその人らしい和みのある居室作りができています。</p>		